

水稲・トビイロウンカに引き続き注意しましょう！

- トビイロウンカ(図1)は、西日本を中心に広範囲で発生が多く、大阪府内でも8月第6半旬に予察灯への飛来頭数が平年を大きく上回るなどしたため、9月3日に病害虫発生予察注意報を発出しました。
- その後も発生の多い状況は続いており、一部ほ場で「坪枯れ」被害が発生しています(図2)。「坪枯れ」被害が今後も発生・拡大する可能性があるため、必要に応じて下記の防除方法・対策をすみやかに実施してください。

○防除方法・対策

- トビイロウンカは水田内で局所的に発生するため、水田内を広く見回り、株元を観察する。
- 多発が確認された場合は、表1の薬剤を使用時期(収穫前日数)に注意しつつ、散布する。
トビイロウンカは株元に多いので、散布時は株元まで十分に薬剤が行き渡るように注意する。
- 既に「坪枯れ」被害が発生しているほ場に散布する場合は、被害拡大を防ぐため、被害の発生している部分だけでなく、ほ場全体に散布するように努める。
- 早期落水は坪枯れの発生を助長するので、適期落水に努める。
- 収穫適期に近い場合は、可能な限り早めに収穫する。

表1 主な防除薬剤

薬剤名	系統(IRAC)	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系(4A)	3,000倍	収穫7日前まで	3回以内
トレボン乳剤	ピレスロイド系(3A)	1,000~ 2,000倍	収穫14日前まで	3回以内
エクシードフロアブル	スルホキシイミン系(4C)	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内

●Web版大阪府病害虫防除指針 (<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/>)

●農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報提供システム (http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

○トビイロウンカとは

- 成虫は4~5mmで、体色は脂ぎった褐色。
- 成虫は長翅型と短翅型があり、長翅型が梅雨時期に大陸から飛来し、次世代以降に主に短翅型が増殖する。8月以降急激に増殖し、秋に被害を起こすため通称「秋ウンカ」と呼ばれる。
- 成虫と幼虫が株元で吸汁加害して急激に増殖し、多発すると秋に「坪枯れ」を生じさせる。



図1 トビイロウンカ(長翅型成虫)
※大阪府植物防疫協会 提供



図2 トビイロウンカによる「坪枯れ」被害